

## ミャンマーにおいて探索・収集したトウガラシ遺伝資源の特性

野菜の新品種育成のためには、育種の素材となる遺伝資源の収集とその特性を把握することが重要です。2002年にミャンマー国と共同で探索・収集した野菜遺伝資源のうちトウガラシ属65系統についてその果実特性および病害抵抗性を調査したので、その概要を紹介します。

2002年8月6日に1系統当たり10株を所内露地圃場に株間50cm、畦幅180cmの2条植えで定植し、8月26～28日に果実特性を調査しました。

2002年にカーボランダム法でタバコマイルドグリーンモザイクウイルス(TMGMV)抵抗性を、2003年には疫病抵抗性と青枯病抵抗性を検定しました。その結果は表1のとおりです。

まず、未熟果の色は、淡緑(53系統)、緑(3系統)、紫(6系統)、淡黄緑(2系統)で、成熟果の色は1系統が橙で、その他はすべて赤でした。果実の着生は56系統で節成り、8系統で房成り、1系統では混合でした。果形はそのほとんどが短楔～長楔型で、ベル型は2系統、円型は7系統、扁平および球形はそれぞれ1系統でした。果実に辛みがないのは4系統のみでした。TMGMVに抵抗性を示したのは6系統、疫病に弱い抵抗性を示したものが8系統見い出されました。青枯病では、これまで収集したいずれの遺伝資源よりも強度の抵抗性を示す系統が6系統見い出されました。また、多くの系統は*Capsicum annuum*に属し、*C. frutescens*は4系統、同定が困難なものは11系統でした。

以上のように、収集系統は多様性に富み、また育種素材として大変有用な遺伝子を持っていることが明らかとなりました。今後は育種への活用を図りたいと考えています。

表1 ミャンマー国において収集したトウガラシ属各系統の果実特性および病害抵抗性(抜粋)

系統番号・ 品種名	未熟果 の色	果形	辛み	TMGMV 抵抗性 <sup>z)</sup>	疫病抵 抗性 <sup>y)</sup>	青枯病抵 抗性 <sup>x)</sup>
1	淡緑	長楔	激辛	s	s	3.9
3	淡緑	ベル	無	s	s	4.0
16	淡緑	中長	微	R	s	4.0
20	緑	ベル	無	R	s	4.0
28	淡緑	長楔	激辛	s	r	3.6
29	淡緑	短楔	激辛	s	s	2.4
31	淡緑	長楔	激辛	R	s	3.6
71	淡緑	小円錐	激辛	s	r	3.4
80	淡緑	中楔	激辛	s	r	4.0
95	紫	短楔	辛	s	s	3.7
93	淡緑	長楔	辛	R	-	-
96	紫	円錐	辛	s	s	2.8
119	淡緑	短楔	-	s	r	4.0
122	淡緑	長楔	辛	s	s	2.2
129	紫	短楔	激辛	s	r	3.8
130	紫	短楔	辛	-	s	2.4
131	淡緑	扁平	辛	-	s	4.0
145	淡緑	長楔	辛	s	s	2.8
s66 <sup>w)</sup>	-	-	-	R	s	3.0
ベルマサリ <sup>v)</sup>	-	-	-	R	R	-

z)R:抵抗性、s:罹病性、y)R:生存株数10以上、r:生存株数1～9、s:全枯死  
x)5段階評価の平均(0:健全～4:枯死)、w)青枯病抵抗性対照(日園研育成)  
v)疫病抵抗性対照

[ 育種バイオテクノロジー科 澤田博正・細美祐子 ]